

## 下大和田 YPP 「米作り講座」開始!

～ご家族で一緒にお米作りしてみませんか?～

千葉県稲毛区 吉田 紀恵(ちば環境情報センター・事務局スタッフ)

下大和田の田んぼは、千葉駅からバスで45分、千葉東金有料道路の中野インターチェンジから車で5分ほどの場所にあります。

小山町は地元の方のお宅に隣接した田んぼで地元の方が耕作されている田畑がまわりにありますが、下大和田の田んぼは民家から離れた場所にあり、地元の方が利用していない田んぼや林をお借りしているため、大人数でも気兼ねなく作業やイベントを行なうことができます。

谷津田での米作りや林の手入れ、自然観察には、県内だけでなく県外からの参加者も多くいらっしゃいます。

そこで 5年前から毎年「米作り講座」を開いています。一年を通じお米作りの各工程を体験頂くというもので、3月の一回目から最終回12月の収穫祭まで13回のコースになっています。この講座では、種まきから籾摺りまでお米作りのすべての工程を体験できるだけでなく、ホタルの観察、かかし作りやおもちつきなどの楽しいイベントもあり、今年も県内からたくさんのご家族が参加くださっています。

第1回目は3月21日、米作り講座オリエンテーションを行ない、日程や作業などについて説明をさせていただきました。そして、みなさんに種籾を配布して3月30日に各自の自宅において水に浸していただくようお願いしました。

2回目の講座は、4月4日土曜日。少し肌寒い曇り空の中、米作りがスタートしました。

田んぼの中に田んぼの土を盛り上げて苗代というものを作り、そこに一週間前から自宅で浸水した種籾をまきます。種籾を手にし少し緊張気味の皆さんでしたが、作業が始まると田んぼ用の長靴で一生懸命ぬかるんだ田んぼと格闘しておられました。

一方お子さんは、田んぼに興味津々だったり、メダカをとったり、生き物を観察したりと、思い思いの楽しみ方をしています。昼食後には林の中のターザンブランコにも挑戦しとても楽しんでいる様子。下大和田では米作りのほか、林や水辺の手入れも行なっていて、大きな木にロープを渡し、ブランコにしたり、ハンモックをぶらさげたりしていて、まさにプレーランドとなっています。

谷津田の上を渡る爽やかな風のおかげか昼食をとる斜面林のマイナスイオンのおかげか解りませんが初めての皆さんもすっかりリラックスして谷津田を満喫していらっしゃいました。

残りの講座はあと11回。今年も事故無く、楽しく米作りをしていきたいと思ひます。

### 2015年 谷津田米づくり日程表

1	3月21日(土)	米づくり講座オリエンテーション、種籾配布 3月30日(月) 種籾を水に浸す(各自の自宅にて)
2	4月4日(土)	苗床作り、種まき
3	5月9日(土)	田起こし、くろ塗り
4	5月16日(土)	田植え(15時まで)
5	6月13日(土)	田の草取り
6	7月18日(土)	畦の草刈り、田の草取り
7	8月16日(日)	かかし作り、鳥よけテープ張り
8	9月12日(土)	コシヒカリの稲刈り、オダ掛け
9	9月26日(土)	コシヒカリの脱穀
10	10月24日(土)	古代米の稲刈り、オダ掛け
11	11月7日(土)	古代米の脱穀
12	11月14日(土)	もみすり(千葉県農政センターにて)
13	12月12日(土)	収穫祭・もちつき

今年の米づくり講座の  
日程表



子どもたちは小川で生きものさがし(2015/4/4 苗代づくり)

## 苗代のはなし

田植えは小さな子どもでもよく知っている米づくりの作業ですが、なぜ田植えをするのだろう、田んぼに直接種モミをまけば田植えをしなくてすむのに...と考えたことはありませんか？ 田植えというのはあまりに当たり前のことなので、なかなかそんな疑問がわからないかと思いますが、田植えをする理由がちゃんとあるのです。

田んぼに植える稲は苗代（なわしろ）で育てます。田んぼに直接種モミをまくのではなく、この苗代にモミをまき、稲をある程度の大きさまで育ててから田んぼに植えます。田んぼに直接まいても育つのですが、雨でモミが流されてしまったり、鳥に食べられてしまったり、水が深すぎると育ちが悪かったりして、なかなか効率よく稲が育ちません。それに稲が田んぼに不規則に生育してしまうと、草取りや稲刈りがやりにくくなってしまいます。稲がきれいに並んで植わっていた方が作業しやすいですね。

日本で米づくりがはじまった頃は田んぼに直接種モミをまいていたようですが、弥生時代の後半に苗代で苗を育てて田植えをする方法が伝わったそうです。苗代は田んぼの土をやわらかくこねて作られ、水苗代（みずなわしろ）と呼ばれ、稲は一ヶ月ほど苗代で育ててから田んぼに移植されます。戦後、苗代を水面よりも少し高くし、種モミをまいた上からモミがらくん炭（モミがらを蒸し焼きにした炭）をまき、さらに油紙やビニールで覆う“保温折衷苗代（ほおんせっちゅうなわしろ）”という方法が考案され、効率よく良い苗が育つ方法として広く普及しました。機械による田植えが始まると、田植機に入れるために苗箱と呼ばれる薄い箱に土を入れてモミをまき、ビニールハウスで育てるようになりました。これが現代の苗代です。ビニールハウスを使うことにより、気温が低いところから苗づくりを始めて早く田植えができるようになりました。苗代の場所が田んぼからビニールハウスに移ったため、苗代を目にすることがなくなり、苗代という言葉は知っていても農家でなければ実際に見たことがある人は少ないことと思います。



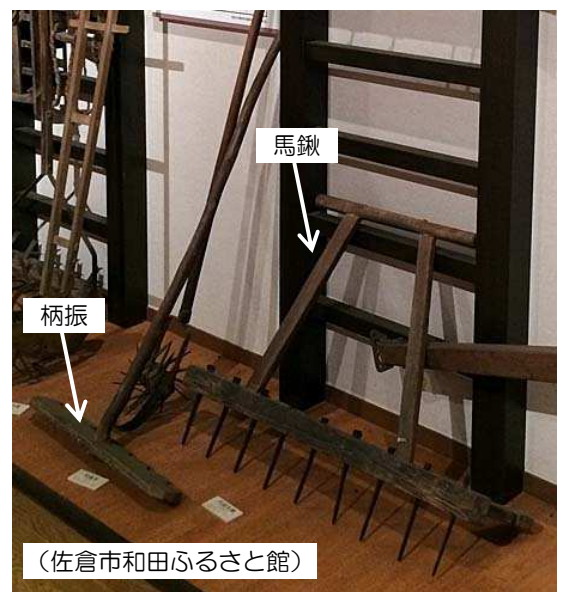
田んぼに作られた苗代（2015/5/6 小山）

下大和田や小山では昔ながらの方法で田んぼに苗代を作っています。コシヒカリは4月初旬に苗代を作って種モミをまき、5月中旬に田植えをしており、地元の方と比べると2-3週間遅めの米づくりとなっています。苗代を見てみたい、米づくりを体験してみたいという方はぜひ、お気軽に参加ください。

（高山 邦明）

## 谷津田の農具図鑑⑦ 柄振(えびい)

田んぼでイネを育てるには水の深さを適切に調整する必要があります。そのためには田んぼの水の深さがどこでも同じでないといけません。田んぼの底は柔らかい泥なので、水の流れて運ばれやすく、田んぼに水が入るところは泥がたまって浅くなり、田んぼの水の出口は泥が流されて深くなりがちです。1枚の田んぼに深さの違いができると、極端な場合には水が深いところではイネが水に浸かってしまったり、浅いところでは水がなくなってしまったりして、全体を同じようにイネを育てるのが難しくなってしまいます。田んぼを同じ深さにするために田起こしが終わった後に、田んぼを均す（ならす）作業（代かき-しろかき-）をします。そのために使われていたのがT字型の柄振です（今で言う“レーキ”）。柄を持って田んぼの表面をこするように動かし、凹凸がなくなるように泥を動かします。田んぼを均すと共に、土の塊を細かくして田んぼの底に泥の層を作り、水が漏れにくくする働きもありました。柄振を使った人力による作業は広い田んぼでは大変なので、くし歯の付いた棒を馬や牛に引かせる方法も行われていました（馬鋤-まんが、まぐわ-）。現在では機械化され、短時間で代かきができるようになりました。（高山 邦明）



（佐倉市和田ふるさと館）

（高山 邦明）



# 里山たんけんレポート

## 第 183 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2015年4月5日(日) 小雨

小雨が降り、気温 10 度という寒い日となりました。開始前に昆虫少年がいつものクヌギ棲家でコクワガタを発見、その観察から始まりました。寒くて雨模様で虫が少なく、今日のハイライトになりました。そのまま林内を巡りシュンランやウラシマソウの花を見たりクロモジでは花と共に香りを楽しみました。ガガンボの仲間が見られたり、ヨコズナサシガメ幼虫の集団がシラカシの幹に固まっているのが見られました。

シュレーゲルアオガエルが合唱する田んぼではタガラシ、タネツケバナ、スズメノテッポウが、畔にハルジオン、カラスノエンドウ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、キュウリグサなどたくさんの花が盛りです。斜面にはヤマザクラがあちこちで満開、雑木の僅かに色づいた新芽が淡く柔らかく小雨にかすんだ景観はこの季節だけの素晴らしいものでした。アズマヒキガエルのおたまじゃくしは黒く固まっています。ニホンアカガエルのおたまじゃくしは水のあるところすべてに散らばりますけど、この習性の違いは面白いですね。

(参加者 大人 7 名、高校生 3 名、小学生 3 名； 報告：網代春男)

## 第 174 回下大和田 YPP「苗代づくり」

2015年4月4日(土) くもり

今年はじめて下大和田での米づくりに参加される方がたくさん来られたので、最初に谷津を散策して自然や田んぼの様子を見ていただきました。畦には草花が咲き、田んぼでメダカやオタマジャクシが泳ぎ、ウグイスがさえずって春本番です。

今回の作業は今年植える稲の苗代づくりです。場所は田んぼの中、最初に泥を寄せて島のような苗床を作ります。モミは米づくり講座を受講する皆さんやスタッフが家で水に浸けてくださっていて、胚芽がふくらんでいたり、白い芽が顔を出していたりして、ちょうど蒔き時でした。モミが重ならないように気をつけながらパラパラ苗代の泥の上にまいて、上から手でペタペタそっと押さえてモミの大きさちょうどぐらい泥の中に埋め込みます。最後に竹の枠にビニールシートをかけたトンネルにして苗代のできあがり。温室の中で稲がしっかりと育ってくれることでしょう。

(参加者 大人 31 名、小中学生 22 名、幼児 6 名、報告 高山邦明)



## 第 118 回 小山町 YPP「コシヒカリと黒米の苗代づくり」

2015年4月11日(土) 雨

あいにくの雨となってしまいましたが、予定どおり、コシヒカリと黒米の苗代づくりをしました。それぞれの苗を植える田んぼの片隅に泥を盛り上げて苗代を作り、一週間水に浸けていたモミをまきました。去年は古代米の実りが今ひとつで「しいな」(実っていない中が空のモミ)が多かったので、苗の生育がちょっと心配です。苗代は寒冷紗(かんれいしゃ)のトンネルで覆って保温でモミの生長を促すようにしました。来月の田植えまでうまく育てて欲しいものです。

雨が小降りになったので、田んぼの草取りも少ししました。雑草がはびこると草取りがとても大変になるので、今のうちになるべく取っておきたいと思うのですが、広い田んぼではそれでも容易な作業ではありませんでした。

(赤米と緑米の苗代は 5 月 6 日に作りました)



(参加者 大人 4 名、報告 高山邦明)

## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 4月11日 旅立ち前のアオジがさえずる。林からフクロウの声がした。田んぼにシュレーゲルアオガエルの卵塊があった(高山)。  
4月18日 去年生まれのアカガエルのチビが田んぼに姿を現す(高山)。  
4月19日 はじめてサシバの声を聞く(松下)。  
5月1日 カワトンボの姿をはじめ見る。田んぼではホソミオツネントンボが舞い、シオヤトンボが産卵していた。ホタルカズラが咲く。上空をサシバが2羽並んで飛翔(高山)。

### 下大和田

- 4月2日 シオヤトンボが発生(網代)。  
4月4日 ウソが数羽斜面林にいた(高山)。  
4月17日 ヒトリシズカが咲く(網代)。  
4月27日 ニホンカワトンボがたくさん発生。フジ、キンランが満開(網代)。  
4月29日 ホタルカズラが満開に(網代)。  
5月1日 ヤマサナエの羽化が始まる(網代)。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

## ▼第176回下大和田 YPP「田植え」(兼、第4回米づくり講座)

いよいよ田植えです。4月に作った苗代で育った苗を田んぼに手で植えます。まずはコシヒカリを植え終わることを目標に、古代米はできるところまで植えたいと思います。

日時: 2015年5月16日(土) 9時45分~14時 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:25、8:40など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴(田んぼが泥深いので長いもの)、帽子、軍手、敷物。

参加費: ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

## ▼第185回 下大和田 6月の谷津田観察会とごみ拾い

命あふれる季節です。ホトトギスの声を聞きながら谷津を巡ります。

日時: 2015年6月7日(日) 9時45分~12時 ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(下大和田 YPP に同じ)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

## ▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時: 2015年5月10日(日)、5月15日(金) いずれも9時45分~15時

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上) 持ち物: 飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催: ちば環境情報センター

## ▼第119回 小山町 YPP「コシヒカリの田植え」

田植えの前半はコシヒカリと黒米です。その主体はコシヒカリ。苗代から移して手で植えます。

日時: 2015年5月17日(日) 10:00~12:30、小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 五月に入り、立夏を迎え季節は春から初夏へと移り変わっていきます。五月は“皐月(さつき)”と呼ばれますが、早苗月(さなえづき)の略と言われていて、田植えの季節を指します。ただ、旧暦の五月は今の6-7月で、ひと昔前の田植えは梅雨の時期に行われていました。五月晴れは梅雨の合間の晴れ間、端午の節句のこいのぼりは梅雨空を泳ぐのが本来の姿だったとのことで、今の感覚とずれがありますね。(高山 邦明)